

## 嬉野温泉本通り道路空間デザイン検討会 第2回検討会 議事録

平成 29 年 12 月 27 日(水)15:30～

(挨拶、資料説明省略)



<温泉タクシー(株)>

調査をした日の天候はどうだったか。

<事務局(建設・新幹線課)>

天候は、寒くはあったけど晴れていた。

<温泉区>

歩道のブロック部分は2～3cm浮いているところがあるから、それでつまずいたとか、中には自転車でこけたということもあって、はみ出して歩道を歩いている人の中には、危険があるから通らないという人も結構いると思う。

<事務局(建設・新幹線課)>

歩きやすさを聞いた質問では、歩道がデコボコしていて歩きにくいという意見を言われている。道路の補修もしっかりやっていきたいと思う。

<温泉区>

歩道に車が止まっているというのが一番多いと思う。自分の店の前に止めているし、止めるから余計に歩道が痛む。歩道から建物を引いているところもあるけど、そことの関連はどうなのか。

<事務局(建設・新幹線課)>

セットバックといって、商店街の方が境界ギリギリではなく、将来的に歩道を広げられるように少し引いた状態で建物を建ててもらっている。2階部分はいいいけど、1階の歩行部分だけ下げてもらおうようにと取り組みをしており、何件かの方には協力していただいている。協力されている方には固定資産税の減免など優遇をしているが、建て替えということになるので、なかなか進んでいない状況にある。ここ2～3年で、3～4件といったところ。

<温泉区>

お年寄りの方は足が上がらないから、転んだり怪我したりという話を聞くことがある。今回は、観光客のアンケートをされているが、路線住民に対してアンケートを取る予定はあるのか？

<事務局(建設・新幹線課)>

直接だと意見を書きづらい部分もあるかと思うので、この会議の場で意見をお聞きしたり、商店街の方へ個別に説明をしながら意見を吸い上げようと思っている。あとは、嬉野小学校に協力いただき、5・6年生の生徒さ

んとその父兄さんにアンケートをお願いしている。その集計結果は次回の会議で紹介したいと考えている。

<温泉区>

計画されている道路の沿線の人達が、どう考えているか、協力してもらえるかを聞いた方がいいと思う。あと、はみ出して歩いている件については、外国人のマナーもあると思う。横並びで何人も並んでいて避けられないなどマナーの悪さもあると思う。

<事務局(建設・新幹線課)>

特に、旅行などグループで歩くときにはどうしても並んで歩きたがる傾向はあると思う。

<温泉区>

交通量で下りの方が多いというのは、仕事や買い物で来ているということなのか。

<事務局(建設・新幹線課)>

マイカーが一番多いということなので、福岡方面や佐賀方面から国道 34 号を通ってくる時の入ってきやすさではないかと思う。

<嬉野市商工会>

車両のナンバーは調べていないのか。

<事務局(建設・新幹線課)>

今回は、通過車両のナンバーまでは調べていない。

<事務局(KCS)>

本通り線が国道 34 号のバイパスみたいになっていることもあって、この道路を抜けていく交通が多いのではないかと当初は考えていた。抜けていく交通は、朝夕の混む時間に抜け道として入ってくる特徴がある。ところが、この道路は、時間帯別の分布結果を見ると、朝夕に交通量が多いわけではなく、休日に交通量が多くなる観光地の道路に非常に近い形になっていた。この道路は、通り抜け目的で利用している交通が多いわけではないということが今回の調査でわかったといえる。ただ一番問題となるのは、自動車交通量は 2750 台であり多くないけれども、自動車交通量が増えてくる時間帯に歩行者も増え、路駐車両も増える。つまり、路駐車両を避けて車道にはみ出す歩行者が増える時間帯が一緒になっているという点が、考えていく必要がある要素ではないかと感じた。

<嬉野温泉商店街協同組合>

路上駐車は、駐車違反になるのではないか。

<鹿島警察署>

取り締まりの対象にはなる。荷物の積み下ろしなどの停車であれば、目安として 5 分程度。

<温泉タクシー(株)>

この道路は、歩行者の方も歩きにくいと思うけれど、車も走りにくいということもあるためあまり使われていないのかなと思う。あと、観光客ヒアリング調査の中で、「温泉街の風情を感じない」「メインストリートとしてのにぎわ

いがない」という意見の割合が高い。車がジャマとか歩道がないから歩みにくいということがいかにも原因のような気がするけど、ここに出ている大きな回答を見ると、それだけでは解決できないような問題もあるのではないかと思う。

<事務局(建設・新幹線課)>

歩道を広げるだけで解決できる問題ではないと考えている。この点は、通りの方々といろんなことを検討しながらやっていくしかないと考えている。歩道を広げることによって、商店街の方に歩道を活用していただき、その中で景観の方も変わっていかれたらと考えている。

<温泉区>

一方通行となった場合に、通称おやふこう通りの交通が増えると思うが。

<事務局(建設・新幹線課)>

来年度社会実験として一定期間やってみて、その時に周辺道路がどうなるかも検証すべきと考えている。

<温泉区>

抜け道になるわき道をうまく活用できるように、もう少し広げられたらいいと思う。電信柱もあるから余計入りづらくなっている。

<嬉野小学校>

今回の調査結果を見ると、日曜日に子供たちが商店街にあまり行ってないんだなということがわかったけど、この日は「ドリームハンズ」という職業体験の行事があったので、その影響で本通りには行ってなかったのかもしれない。それはそれとして、この道路については、車道を狭くするしかないのかなと思う。ただし、そこで生活をされている方にとって、一方通行になったらどうなるのか、まずは実験をやってみたいというお話ではあったが、それ以前にご意見を伺っておかなくていいのかと感じた。道幅自体を広げることは難しいので、車道を狭くしなければ、歩道を広げるというのは不可能。その場合に、合意が得られるのか、メリットデメリットを聞いておかなくていいのかと感じた。

<温泉区>

時間帯別の一方通行というのは、考えられないのか。商売をされているところは搬入などがあるから、時間帯を決めてその間にやってください、それ以外の時間は一方通行でということにできれば、全くの一方通行よりはいいのかなと思う。ただ、車道を狭くしてしまったら、時間帯別というのはできないけど。

<事務局(建設・新幹線課)>

時間で分けるというのも不可能ではないと思うけど、混乱の方が大きくなるのではと考えている。地元の方は慣れるかもしれないけど、観光客など外から来られる方にとってはわかりにくいし、荷物の搬送も、結局は同じ時間帯に集中してしまうことになるので、なかなか難しいかと考えている。

<嬉野温泉商店街協同組合>

救急車や消防車の通行は、現状でも厳しい状況にあるので、それを踏まえての考え方をしていかないと。大火事がおこっているのに、消防車が入ってこられない状況になれば不幸なことになる。今後、仮に一方通行をする場合には、その対応も考えておかなければいけないと思う。

<事務局(建設・新幹線課)>

車道を狭くして一方通行ということになった場合でも、荷下ろしやタクシーの乗降スペースを取らないと実現化は難しいと考えている。商店街の店舗の中には、駐車場を整備されているお店もあるので、その目の前に駐停車スペースを作ることはできない。その点も考慮しつつ、バランスを見ながらスペースを検討し、次回会議において、案を出したいと考えている。

<嬉野温泉商店街協同組合>

今回、観光客に対してアンケートをされているが、商店街を利用しているのは地元客が7~8割、土日であれば観光客も多くなってくるが、平日は地元客の方が多い。そんな中で、生活している方にとって一方通行が不自由にならないか、また一方通行をするのと合わせて、通りのデザイン化などとも言われているけど、それをすることによって、店舗の経営が傾いてしまう危機的状況にもなりえる可能性を秘めていると思う。観光客だけの聞きとりではなく、地元の方の意見もあわせて聞く必要があると思う。

<事務局(建設・新幹線課)>

地元の方やお店を利用される方の聞きとりも、検討してみたいと思う。

<温泉区>

そもそも、商店街に車で買い物に来て、長い時間車を止めていいのか。近くに駐車場や止める場所があれば、なくなるのではないかと。空いている土地をうまく利用できたらいいと思う。

<事務局(建設・新幹線課)>

駐車場の必要性はどうしても出てくる話だと思う。それを、行政がやるのか、もし空いている土地があれば、所有者の方が時間貸駐車場をやっていただくのもあるかと思う。自分たちもどこかに行ったときには、当然有料駐車場を探して利用する。観光に来られる方にもその感覚はあると思うので、民間で有料駐車場をやっていただくのもあるのかなと思っている。

<温泉区>

今までが、駐車場がないからタダでどこでも止めていいという解釈になっている。空き家などが結構あるから、管理をどこがするのかなどをうまく相談して、そういう土地が活用できるかと思う。道の中に止めるスペースを作るといっても、それは駐車ではなく、停車スペースにしないといけないから、長時間の駐車はできない。

<事務局(KCS)>

今回の資料は現状の交通量のデータを示したものであるが、次回の会議では将来形の議論をされたいかかと考えている。今回のアンケート調査の中で、観光客の来訪手段を聞いており、6割の方が自動車で来訪されているという結果になっている。ところが、新幹線が開業して、新幹線を利用される方が増えてくると、徒歩で来訪される方が増えてくる。それから、嬉野市の総合計画を見ると、高齢化率が2040年には約4割になるという数字が出ている。また、道路交通量は将来的に減少していく推計になっている。さらに、高齢者の方は免許返上される傾向も高まっていて、嬉野市でも地域住民の方が高齢化されて車を手放していかれる可能性もある。そういったときに、嬉野の町がどうあった方がいいのかということや、少し議論されてみたらどうかと感じた。4割に上る高齢者の方が商店街に買い物に来られるときに、こういったものを提供した方がいいのかということになるかと思う。

<嬉野小学校>

少子化について言うと、今年度から来年度にかけて、藤津鹿島地区の全小中学校の中で嬉野小学校だけは子供の数が増える。ということは、嬉野にはまだまだ魅力がたくさんあって、住みたいと思われている町ということ。そういった中で、本通りが中心となって、若い子育て世代にとっても魅力のある町として、嬉野が華麗に変貌を遂げてほしいと思っている。ただ、嬉野小学校は増えるけど、嬉野中学校は減るので、嬉野全体が増えているということではないかもしれないけど、この校区はまだまだ賑わいがあるので、次の世代へ町の勢いを伝えていく施策を期待したい。

<事務局(建設・新幹線課)>

小学生アンケート結果を見ると、小学生は将来に夢を描いた内容を書いている。将来に向けてどうあるべきかということを考えていかなければいけないと感じている。

<温泉区>

道路空間に関してだけの会議になるのか。

<事務局(建設・新幹線課)>

まずは道路ということで考えているが、それができたからといって、それで終わりというわけではない。

<温泉区>

商売をしている方の元気がないとね。